

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自ら課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

- ・基礎学力の確実な定着と進路指導の充実
・生徒支援の充実
・キャリア教育の充実
・地域や異校種との連携
・働き方改革の実現
・授業の改善

各学校で定める目標と育成する資質・能力

【学校で定める目標】

- ・社会性やコミュニケーション能力をはじめとする総合的な「人間力」の向上
・地域に対する理解を深め、郷土を愛する心を育む
・持続可能な社会の実現を目指すための価値観や態度を育む

【育成する資質・能力】

基本的な知識・技能、豊かな人間性(思いやりや助け合いの精神、郷土を愛する心)、コミュニケーション能力、自律性(規範意識)、協働性、主体性、健康・体力、生命尊重、課題解決能力、思考力・判断力・表現力

総合的な探究の時間の学習評価

- ・豊かな人間性(思いやりや助け合いの精神)が育成されたか。
・社会性やコミュニケーション能力が育成されたか。
・相互理解を深め、協働性が涵養されたか。
・地域に対する理解が深まり、郷土を愛する心を育成できたか。
・地域の課題を発見し、解決しようとする姿勢が身に付いたか。
・自己の可能性を発見し、実現に向けてのアプローチが図られたか。
・自己の活動を振り返り、さらなる次元の目標につなげる力が身に付いたか。

生徒の実態

- ・自然や歴史、文化遺産に恵まれた環境にあるが、愛校心や郷土への愛着が薄い傾向にある。
・高校卒業時に、およそ半数の生徒が地元の企業に就職している。しかしながら、早期に離職する生徒も見られる。
・アカデミックコースおよび進学アドバンストコースの生徒たちは、大学進学を目指し、学力向上をはじめ、意欲的に学校生活を送っている。
・地域ビジネスコースおよび地域キャリアビジネスコースの生徒たちは、就職あるいは専門学校進学を目指し、日々の授業をはじめ、自らの人間力向上のため努力を重ねている。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

- ・座学や実習において、地域の人的・物的教育資源を積極的に活用する。
・体験学習や実習に積極的にでない生徒については、生徒同士の相互理解を促し協働して取り組めるよう支援する。
・プレゼンテーションの場を複数回設定し、自信を持ってプレゼンテーションに臨めるよう支援する。

目指す生徒の姿

- ・郷土を愛し地域に誇りをもてる生徒
・地域社会を支え、地域に貢献し、地域の課題を解決できる生徒
・様々な体験活動において、他者とのかかわりや地域とのつながりを通して自己肯定感・自己有用感を高める生徒
・基礎学力を身に付け、課題解決能力を育み、多様な進路の中から自己の進路を選択できる生徒

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

○1学年「つくばね学探究Ⅰ」

- ・まずは自己理解に努め、次に自己を取り巻く他者について理解を深める。規範意識や豊かな人間性を育み、生徒同士の相互理解を促進し協働性を育む。様々な分野において地域の方々を講師に招き、よりよい社会づくりに参画する態度を育成する。さらに、校外活動を通して自己有用感を高め、地域にかかわりながら課題を見つけ、解決に導こうとする力を育成する。
・進学アドバンストコースと地域キャリアビジネスコースとでは、進路希望に応じ、一部異なる活動を設定する。

○2学年「つくばね学探究Ⅱ」

- ・地元についての学びを通して、郷土を愛し地域が抱える問題について関心をもたせる。「つくばね学探究Ⅱ」の実習を通して、地域の課題に取り組み、解決に導こうとする姿勢を育む中で、職業観や勤労観を養い、社会性やコミュニケーション能力の育成に資する。
・進学アドバンストコースと地域キャリアビジネスコースとでは、進路希望に応じ、一部異なる活動を設定する。

○3学年「つくばね学探究Ⅲ」

- ・「つくばね学探究」の実習と連携を図り、社会性やコミュニケーション能力等の総合的な人間力の向上に努め、多様な他者との協働を通して、地域の課題を発見し解決する態度を身に付ける。さらに、自他の評価を参考に自分自身を振り返り、よりよい進路実現のために、次なる課題発見へと導く力を育成する。

学習活動、指導方法等

○1学年「つくばね学探究Ⅰ」

- ・自己を見つめる場や、生徒同士の相互理解を促進する場を設定し、自己理解を図るとともに、協働性を育む。
・様々な刺激を生徒たちに提供することで、社会の知識を身に付け、よりよい社会づくりに参画する態度を育成する。
・校外ボランティア活動を通して自己有用感を高め、地域にかかわりながら課題を見つけ、解決に導こうとする力を育成する。

○2学年「つくばね学探究Ⅱ」

- ・地域キャリアビジネスコースでは、地元についての学びを通し、自分が住むまちへの愛着や興味・関心をもたせたいうえて、事業所等での体験活動を通し、社会性やコミュニケーション能力等、総合的な人間力の向上を目指す。
・進学アドバンストコースでは、自ら設定するテーマに基づく探究活動を深め、自己の在り方・生き方についての理解を深める。

○3学年「つくばね学探究Ⅲ」

- ・各事業所での実習において、社会性やコミュニケーション能力等の総合的な人間力の向上に努める。
・地域課題に対する理解を深め、協働して課題解決を目指す態度を育成する。
・多様な他者と協働する態度とプレゼンテーション能力の育成を図る。
・様々な活動を通して自他の評価から自分自身の活動を振り返ることを通して、持続可能な社会を実現するための価値観と態度を育成する。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

【カリキュラム・マネジメントの充実】

・教科横断的な視点での教育活動を促進、教育課程検討委員会を中心としたPDCAサイクルの促進、学年行事や教科指導等において地域の教育資源を積極的に活用

【授業改善の促進】

・校内研修の充実、校外研修への積極的な参加、公開授業や交互授業参観を積極的に実施

【学習指導の促進】

・習熟度別授業や少人数授業、TTの充実、学校設定教科「筑波サポートタイム」の実施、家庭学習の習慣化を促進、授業改善

【進路指導の充実】

・体系的、組織的なキャリア教育の充実、夏季セミナー、春季セミナー、バス見学会の実施、ハローワークとの連携強化等による就職指導、進路実現に向けてポートフォリオの活用を促進

【生徒指導の推進】

・登校指導、巡回指導、服装指導等の充実、マナーカード指導等による規範意識の向上、いじめに対する組織的な対応と人権教育の推進、警察や児童相談所等の関係諸機関等との連携強化